

令和3年度発達障害教育実践セミナー

秋 田 県

令和3年度 発達障害教育実践セミナー

学校と放課後等デイサービス事業所の
連携促進に向けた研修会の取組
～切れ目ない支援に向けた連携体制の構築に向けて～



秋田県教育庁特別支援教育課

取組概要

○本研修会は、切れ目ない支援体制整備充実事業（文部科学省補助金事業）の一つで、令和2年度から実施

○研修会の概要 *今年度は収録によるオンデマンド型配信
参加者の感想等は視聴後アンケートで集約

- ・目的：障害のある子どもの生活や学習を総合的に支援するために、連携に係る好事例の共有や課題解決の方策等の検討を通して、学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進を図る。
- ・会場：県内3地区（県北：北秋田市、県央：由利本荘市、県南：湯沢市）
- ・参加者：（市町村）小・中学校、放課後等デイサービス事業所、
相談支援事業所、教育委員会、障害福祉担当課
（県）健康福祉部障害福祉課
- ・内容：趣旨説明、パネルディスカッション

○研修コアカリキュラムの活用

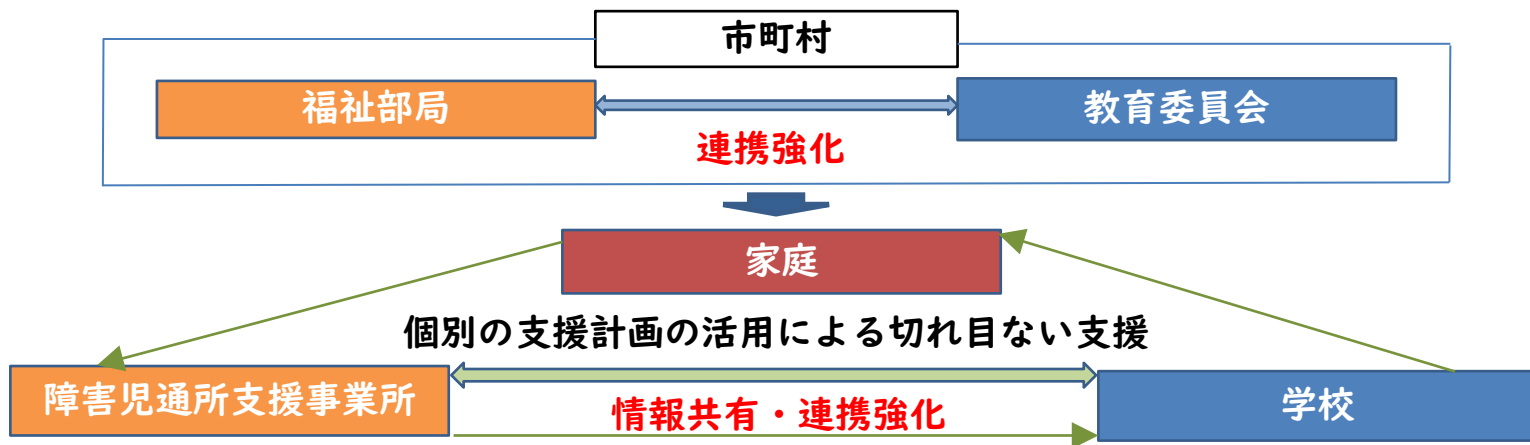
- ・共通のA基礎知識「切れ目ない支援」（到達指標：初級）

*「はじめに」「背景と目的」も活用

研修会① 趣旨説明

○趣旨を端的かつ分かりやすく説明

- ・趣旨 学校と放課後等デイサービス事業所の連携促進
～切れ目ない支援に向けた連携体制の構築に向けて～



【引用】平成30年3月29日 家庭・教育・福祉の連携「トライアングル」プロジェクト報告 概要

○国の主な関係動向も説明（以下、一例）

- ・学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行について（通知）
平成30年8月27日 文部科学省初等中等教育局長

*個別の教育支援計画を省令に規定

*第3 留意事項 3 個別の教育支援計画を活用した関係機関等との連携

令和2年度放課後等デイサービス事業所対象の 調査の結果報告

○パネルディスカッションにつなげる具体的な報告

【例】質問9 事業所と学校との連携の具体的方策など
効果的な連携についての意見

○主な意見

- ・放課後等デイサービスに対する学校の理解
- ・情報共有及び面談（送迎時、定期、進級早期等）
- ・見学（学校、事業所）
- ・ケース会議、支援会議、担当者会議、連絡会の実施
- ・療育部会や児童部会の活用
- ・連絡帳、個別の教育支援計画の共有・活用
- ・本人及び保護者のニーズの把握
- ・研修会の実施
- ・連携の体制づくり

○令和元年度の小・中学校への調査結果を上記に照らして補足

研修会② パネルディスカッション

「切れ目ない支援に向けた連携体制の構築に向けて」

○コーディネーター（全地区）

・秋田大学教育文化学部 鈴木 徹 准教授

○パネラー（各地区）

・市教育委員会、市障害福祉担当課、
相談支援事業所、放課後等デイサービス事業所

*小学校（県央地区）

*最後に県健康福祉部障害福祉課から全地区でコメント

○内容

- ・ねらいについてコーディネーターから説明
- ・各パネラーからの話題提供と質疑応答
- ・ディスカッション（キーワードを基に）
- ・コーディネーターによるまとめ

パネルディスカッションの様子



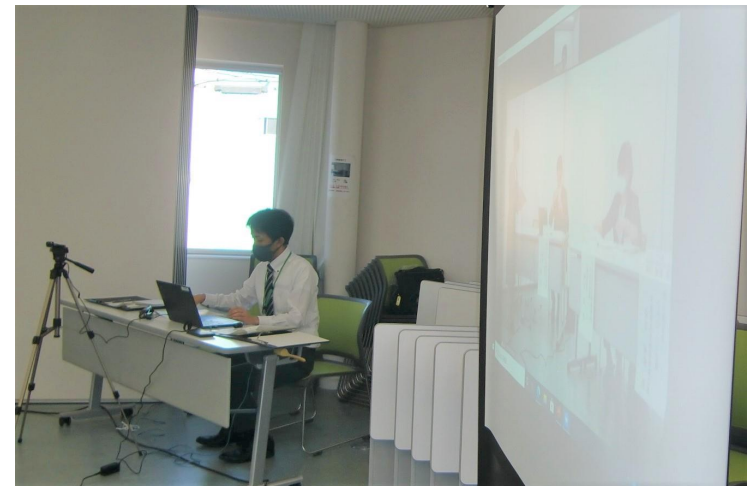
【**圏央地区**】



【**圏北地区**】



【**圏南地区**】



～**収録**～

令和2年度のパネルディスカッションから 見えてきたこと

学校と放課後デイが連携するために必要なこと

○それぞれの場を知る取組

- ・定期的な話合い

○場と場をつなぐ取組

- ・連絡帳の共有
- ・メモ書き

全国的な動向やパネラーの話題提供を受けて

それぞれの場を知る取組

実際

- ・ 定期的な面談
- ・ 特に行っていない。

課題

- ・ 形式的なものになっている。
- ・ 状況の確認に留まる。

場と場をつなぐ取組

実際

- ・ メモや電話
- ・ 特に行っていない。

課題

- ・ 好事例が出にくい。
- ・ 連携しているが十分でない。

それぞれの取組を実際に行っているところは多い。

ただ「好事例」に比べて「好事例とは言えない事例」が圧倒的に多い。

それぞれの取組をより良いものにしていくためには
(好事例を増やしていくためには)

現場レベル

- ・ チーム(家庭・教育・福祉)としての意識向上
- ・ 双方向性のある情報のやりとり(伝達から共有へ)

行政レベル

- ・ 現場レベルを下支えするような領域横断的な取組

パネラーの話題提供から

小学校特別支援学級担任（特別支援教育コーディネーター）

「迎えの時は毎日教室まで来てもらっている」

- ・子どもの姿を見てもらう。
- ・廊下等に掲示している作品を見てもらう。
- ・玄関までの歩行の様子を見てもらう。
- ・事業所での姿を聞くこともたくさんある。

*共に子どもや保護者をサポートする立場として

*事業所と学校というよりは、事業所の方と私のつながりが
子どもへの支援の充実へ

ディスカッションから（県北地区）

【市教育委員会】

- ・ 学校の核となる人を対象とした会議・研修会で、放課後デイの実際を伝えたい。

【放課後等デイサービス事業所】

- ・ 連携のためのシステムやツールが、形式的なものにならないようにしたい。関係づくりが大事。

【相談支援事業所】

- ・ 連携するためには舵取りが必要であり、相談支援専門員がつなぎ役になれるのではないか。

【市障害福祉担当課】

- ・ 行政は包括的に考え、仕組みをつくっていくという役割が大きいと考える。

研修後の参加者アンケートから

○大事にしたい考え方

- ・ チームとしての関係性、子どもの捉え方

○今後取り組んでいきたいこと

- ・ 関係機関をつなぐ役割、福祉サービスの周知
(相談支援事業所)
- ・ 放課後デイの訪問・見学、面談、個別の支援計画の活用、校内への情報提供
(学校)
- ・ 学校の訪問・見学、面談、個別の支援計画の活用、放課後デイとしての支援向上
(放課後デイ)

成果と課題

○成 果

- ・昨年度の2倍を超える参加があった。
- ・昨年度の内容を開催市を変えて繰り返したことや相談支援事業所の参加、コーディネーターからのキーワードの提示などにより、深まりのある研修会となった。

○課 題

- ・引き続き情報発信に努め、特に教育側（学校や教育委員会）の理解を促す必要がある。
- ・モデル地域を指定して具体的取組を進め、好事例を蓄積・発信する必要がある。